

## 学長のコラム

### 1回目のワクチン接種を終えて

新型コロナワクチン職域接種の1回目が終了致しました。7月9日(金)から19日(月)までの土日を除く7日間で計1,451人が接種を受けました。学生の意識も高く、最終的に学部学生の接種率は89%を超え、90%に近い数字となりました。職域接種にご協力頂いた教職員の皆様にも心から感謝申し上げます。幸い重篤なアナフィラキシー症状の方ではなく、スムーズに1回目の接種を終えることが出来ました。今回のワクチン接種にあたっては、学内スタッフで十分な対応が可能かどうか慎重に検討致しましたが、最終的には、部分的に外部からの応援をお願いしたものの、学内の人材が主体となってワクチン接種を完了することができて、大変良かったと思います。中には尻込みされていた先生方もおられましたが、1回目の接種を終えて、自信を持たれた方も多いたと思います。第2回目は4週間後の8月6日(金)からの7日間を予定していますので、次回も是非、ご協力をお願い致します。

ワクチン供給の逼迫によって職域接種に遅れが出ている中で、当初のスケジュール通りにワクチン接種が進んでいることに安堵感を覚えています。首都圏では感染者数が増加に転じ、第5波の入口に差し掛かっており油断は出来ませんが、ワクチン接種が順調に進んでいることは、本学の新型コロナ対策にとっても好材料と捉えることが出来ます。今後、県や市の状況も踏まえて、適切な感染防止対策を進めていきたいと考えています。

さて、先日の7月18日(日)には1回目のオープンキャンパスを開催致しました。昨年はオンライン開催でしたが、県内のリスクレベルがレベル2となったこともあり、今年は学内で開催することが出来ました。休日にも関わらず対応にあたって頂いた教職員各位に感謝申し上げます。高校生等の参加者数は、3学科合計で午前の部が135人、午後の部が76人でした。感染予防のため各学科50人を上限にしましたので、午前の部は制限の150人に近い人数となりましたが、午後は約半数で、人数的にはもの足りない印象を受けました。それでも来場者は各種の実習体験や在校生との交流に熱心に参加しており、現地開催の重要性を感じました。また、助産別科については、午前・午後とも上限の5人の参加があり、本学を目指す明確な目的を持っていることがわかりました。

高齢化社会の到来や新型コロナウイルス等の感染症対策などで、これからの社会では医療従事者の役割がますます重要になってくるものと思います。今年は、あと2回のオープンキャンパスが予定されていますが、これを機会として本学を目指す受験生が増えてくれることを願っています。



アリーナに設置したワクチン接種会場



オープンキャンパスでの顕微鏡実習体験

### 7月・8月・9月の主な行事予定

7/28(水)	(学部) 前期授業終了
7/29(木)	(学部) 前期定期試験～8/6(予備日含)
7/31(土)	(助産) 夏期休業日～8/17
8/6(金)	【第2回】新型コロナウイルスワクチン接種～8/16
8/7(土)	(学部) 夏期休業日～9/26
8/20(金)	第1回情報セキュリティ研修会、GHLP
8/22(日)	8月期オープンキャンパス
8/29(日)	チャレンジ熊保大！推薦選抜対策講座
9/5(日)	9月期オープンキャンパス
9/11(土)	学生間交流(大邱保健大学)
9/15(水)	银杏学園理事会

### 現代日本社会における移民の研究

図書館・学術研究部主催『第19回サイエンスカフェ』が6月29日(火)にキャンパステラスで開催されました。「移民と日本、移民と熊本、移民と医療」と題して伊吹唯助教に講演いただきました。

「移民」とは国境を越えて移動する人を総称した言い方です。伊吹助教は、先行研究をもとに2020年時点で日本には約289万人の移民(外国籍保持者)がいることを紹介されました。また、日本から海外への移民を見た場合、戦前、熊本から海外へ6万8千人余りの人が移住し、なかでもブラジルへの移民送出数が全国で最も多かったことも紹介されました。最後に、医療提供者より医療支援を必要とする人に視点を当て、移民の現状についても「今後移民と医療分野との関わりが増えるだろう」と語られました。(文責：企画・人事課)



移民の現状について語る伊吹助教

### 世界禁煙デー 禁煙週間イベント「禁煙川柳大会」

今年も世界禁煙デー(5月31日)に合わせて、禁煙川柳大会を開催しました。学長賞・学生委員長賞・事務局長賞の3賞の他に、学生ノミネート10句の入賞作品を学生による投票形式で決定しました。今回は42句の応募があり、ウィットに富んだ作品が集まりました。これからも引き続き、大学をあげて禁煙活動に取り組みます。



申教授、竹屋学長、河瀬事務局長と3賞受賞者

(文責：学務課) ※選ばれた句は右の欄に掲載しています。

- 学長賞 「すいません・・・」言わずに済むよう「吸いませぬ」 [ユニコ](#)  
 学生委員長賞 まわり見て タバコ休憩 あなただけ [チャン・五島](#)  
 事務局長賞 タバコ吸う 財布も肺も スカスカに [小桜](#)  
 学生投票  
 第一位 副流煙 くっせえくっせえ くっせえわ [初心者](#)  
 第二位 「すいません・・・」言わずに済むよう「吸いませぬ」 [ユニコ](#)  
 第三位 吸う人は 自分の命も 吸われてる [masatow](#)

## 理学療法学専攻の定員増（文科省へ認可申請中）

現在、我が国において団塊世代が 75 歳以上となる 2025 年に向け地域包括ケアシステムの構築を進めている一方で、健康寿命の延伸に着目した予防医学分野の重要性が高まっています。特に、人生 100 年時代を見据えた現在において、健康寿命の延伸に影響が大きい運動・スポーツ領域において理学療法士の活躍の場は広がりつつあります。

そこで本学では、理学療法学専攻の入学定員を 20 名増やし、健康・スポーツをキーワードに地域貢献できる人材やデータ分析等の研究力を有した人材育成を目指して、スポーツリハビリテーションコース（20 名）を新設予定（認可申請中）です。このコース選択者には、通常の理学療法士養成のカリキュラムに加え、スポーツリハビリテーションに特化した演習や講義を準備します。また、ダブル・ラーニング制度により、理学療法士資格に加え、日本アスレチックトレーナーズ協会認定のアスレチックトレーナー資格（認定校申請中）の取得を目指します。

（文責：経営企画室）

## 教育 IT 環境検討ワーキンググループ

COVID-19 対応として始まった対面授業と遠隔授業のハイブリッド方式も 2 年目に入りました。今では manaba をはじめとするクラウド型ツールが対面授業でも活用されており、授業形態にかかわらず、IT インフラは教育環境として重要度を増しています。こうした状況にあって、当 WG は大学運営協議会のもとに設置され、教育 IT 環境の整備・運用について話し合いを重ねています。

直近の課題としているのは、後期セメスターの開始に向けて、マルチメディア教材作成や同時双方向型遠隔授業を教員が円滑に行うための環境整備です。また、今後段階的に取り組む課題は、講義室・実習室への Wi-Fi 設置を進め（将来的には 1、2、3 号館の全館 Wi-Fi 対応に向けて）、対面授業においても学生が各自のスマートフォンやノートパソコンからマルチメディア教材を随時参照できるようにして、能動的な学びを促進することです。

IT 環境構築を通じて教育の質向上に寄与するべく、引き続き検討を重ねていきます。

（文責：教育 IT 環境検討 WG 長 向井良人）

## 看護学科 4 年による薬物乱用防止教室

7 月 1 日（木）・6 日（火）・8 日（木）・16 日（金）にキャンパステラスにおいて、看護学科 4 年の選択科目「学校・産業保健」（履修生 22 名）による薬物乱用防止教室が開催されました。今年度は北部中学校（1 年生：喫煙・2 年生：飲酒・3 年生：薬物）に加え、井芹中学校（1 年生：喫煙）からも依頼があり、Zoom にて講話をさせていただきました。「意外と自分達の身近にあるかもしれないと感じたので、しっかりと気をつけようと思いました（中学 3 年生）」、「もし誰かに飲むことを勧められたら、たとえ知らない人でも、親戚でも、先輩でも、きっぱりと断ろうと思います（中学 2 年生）」等の感想があり、中学生一人一人の心に響く講話になったようです。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、このような貴重な経験をさせていただいた北部中学校・井芹中学校の諸先生方に心からお酒の影響や断り方について語る学生たち感謝申し上げます。

（文責：看護学科 講師 荒木善光）



## 著書紹介『熊本橋紀行』

橋梁構造工学が専門の崎元達郎顧問（熊本大学名誉教授・本学園前理事長）が『熊本橋紀行』（熊本日日新聞社）を上梓されました。

江戸時代から現代に至る熊本県内の代表的な 134 橋を収録。文化財として歴史的に貴重な橋や地域の発展に貢献した橋のほか、デザイン性や新規性といった専門家ならではの視点で選ばれた橋も紹介されています。それぞれに豊富な写真や地図、詳細データがつけられています。崎元顧問によると、熊本地震で破壊された橋や球磨川洪水で流失した橋の取り扱いに苦労されたそうです。橋の歴史や構造の違いなどの「豆知識」も随所にちりばめられ、一般の人が興味深く読める一冊となっています。（文責：企画・人事課）



※この記事は公開していません。

## 私の秘話ヒストリー

今回は学生相談・修学サポートセンターの岩村純子 講師に投稿していただきました。

コロナ禍で旅行が制限される中、初めての海外旅行を思い出してみました。まず行先を決めたきっかけがあり、それは高校 3 年の冬、受験で福岡行の JR に乗車した時のことでした。席の隣で一緒になったのは、バイクなどで有名な企業の人事の方で、受験に行くという私に色々助言をくれました。また世間話から海外の話となり、どこに行きたいのかを尋ねられ、私がカナダを挙げると、「カナダはいつでもいける。今行くべきところは香港だよ。もうすぐ中国に返還されるからその前に行って観ておかなきゃ」と。この一言で、大学 1 年生の夏休みに一人で香港へ旅にでることにしました（一人旅を心配され、結局はツアーでの旅でした）。当時の香港空港は世界でも 1～2 番の危険な空港と言われていたようで、着陸前に高層ビルの間を近距離で飛んだ光景が記憶にあります。現地では観光に、食事、ショッピングを楽しみました。中でも夜景は感動しました。あれから時が経ち、もう一度香港を訪れるのもいいかなと、そして何より、旅行が楽しめる日常に戻ることを願うばかりです。